

アグリワークポイント

は種時のポイント

- ・育苗培土は**宇部粒状培土**を使い、は種前にたっぷりかん水しましょう。
- ・適正な量は種量を守り、は種機などを使いできるだけ均一にまきましょう。
- ・種子が完全に隠れるまで覆土し、その後のかん水はしないでください。



農業経営支援課 石田 哲也

生育ステージごとの最適管理を行いました

出芽時の温度管理に注意

出芽温度が32℃を超えると高温障害や徒長苗の原因となります。好天日は早めに換気し、ビニールハウスやトンネル内の温度上昇を防ぎましょう。低温時は遮光資材を使わず、保温用シートをベタ掛けするなど、温度管理に努めてください。また、温度計は、必ず床土の温度を測るように設置しましょう。

シルバーポリトウの除去はタイミングを逃さずに

シルバーポリトウの使用は、4月下旬以降のは種を対象としています。シート除去の遅れは、徒長苗の原因となるので、**被覆期間は7〜10日程度、苗の長さは7〜9cm**を目安としましょう。断熱性があり、トンネル内は異常高温にならないので換気の必要はないですが、緑化期間は換気をする方がより良い健苗を得られます。

適切な水管理

緑化期（1.5葉期）までは、1日1回10時以降に、硬化期（1.5葉期以降）は、午前と午後1回ずつかん水しましょう。なお、**夕方のかん水は、温度低下や夜間の呼吸を妨げるので、15時までに行ってください。**また、曇りや雨の日は、極力かん水を控え、床土の過湿状態を防ぎましょう。

育苗が失敗する原因と対策

対策	原因	失敗例
液肥を3日置きにかん注	種子消毒時の浸種と催芽不足、覆土が厚い、播種むらなど	発芽不良・不揃い
タチガレエース液剤を散布	育苗期間中の管理不足	育苗中に病気発生
日中は25℃以上、夜間は5℃以下にならないよう温度管理に注意する	発芽後に4℃以下の異常低温があった次の日に高温となり、蒸散が盛んになると発生	※むれ苗症状発生

タチガレエース液剤は、は種後または、は種時に散布することで、ある程度の予防ができます。ただし、**予防剤なので症状が出る前に散布してください。**詳しい使い方は、最寄りの営農経済センターへお問い合わせください。

※葉が急に巻き、蒸れてよれたようになります。やがて地上部は枯れ、根が腐り容易に引き抜けるようになる症状です。進行すると苗立枯病となります。